

Contents

- 有限会社やまびこ農産（筑前町）～国産飼料作物生産の取組～
- 第2回みどり戦略学生チャレンジ募集のお知らせ
- 有機栽培の取組事例を作成しました

有限会社 やまびこ農産（筑前町）～国産飼料作物生産の取組～

日本の畜産経営は、コストの4～7割程度を飼料費が占めていますが、飼料の多くを輸入に依存しています。国際情勢に左右されにくい持続的な畜産業の発展には、国産飼料の生産・利用の拡大を進めることが重要です。この度、国産飼料作物の生産に積極的に取り組む同社の取締役社長 焼山丈彦様にお話を伺いました。

飼料作物生産に取り組んだ経緯は？

加工用キャベツ（約20 ha）の**連作障害対策**として、その収穫とキャベツの定植までに時間の余裕がある**WCS*用稲**の生産を裏作で始めました。

* Whole Crop Silageの略で、実と茎葉を一体的に収穫し、乳酸発酵させた飼料のこと

どんな取組ですか？

主にWCS用稲（約16 ha）を生産しています。当社で耕起、播種、除草等の肥培管理を行い、専門の**外部組織に収穫作業**を任せています。圃場には**畜産農家から購入した堆肥**を散布し、その畜産農家が当社で生産した**稲を原料とした飼料**を利用する**耕畜連携**を行っています。また、主な作業を近隣の生産者に依頼し、数年前から**子実用とうもろこし**（約1.2 ha）も生産しています。



取締役社長（左端）と従業員の皆様



有限会社 やまびこ農産

経営面積 33 ha
栽培作物 キャベツ、麦、米、大豆、WCS用稲、子実用とうもろこし
加工品 餅、大福等
従業員 13名
(技能実習生、パート等含む)



今後の展望は？

子実用とうもろこしの栽培は、他作物と比較して労働時間が短く、畜産農家の需要もあり、経費を抑えて規模拡大するのに適しています。 今後は、当社が主体となって、全工程を担い、少しずつ規模を拡大していく予定です。

当地域も高齢化が進み、離農が増加しています。飼料作物の生産を念頭に離農者の農地を引き受けることで、**担い手として地域の発展に貢献**していきたいです。



子実用とうもろこしの収穫

